

第 1 5 回機電技術者意見交換会 実施報告書

実施日：2011 年 10 月 6 日（木）～7 日（金）

- ◆ 機電技術者意見交換会開催にあたり
- ◆ 第 1 5 回機電技術者意見交換会報告
- ◆ グループ討議結果
- ◆ アンケート集計結果
- ◆ 資料
 - (1) 意見交換会参加募集及びスケジュール
 - (2) 参加者名簿
 - (3) 実施状況写真
- ◆ 機電技術者意見交換会を振り返って

2011 年 11 月 28 日

（社）日本建設機械化協会 建設業部会

◆ 機電技術者意見交換会開催にあたり

(社) 日本建設機械化協会
建設業部会 副幹事長 小俣文良

現在、現在建設業を取り巻く環境は非常に厳しい状況にあります。少子高齢化の社会情勢を反映し、国家予算の配分は社会福祉に重点が置かれ、公共事業削減が毎年継続して実施されています。日本経済全体を見ても円高の影響もあり、産業の空洞化は更に進み、民間の設備投資も減少傾向にあり、建設市場の規模は最盛期の3割から4割程度まで落ち込んでいる状況です。

そんな中、皆さんもご存知のように、3.11の東日本大震災を受け、早期の復興に向け全国民が関心を持ち、復興方針も徐々に具体化され、現地も動き出しているところです。

復興の第一歩はインフラ整備からと言うことで、建設業の役割は言うべくもなく、非常に重要な役割を担うこととなります。すでに皆さんの会社も復興業務に携わっているところが多々あることと思います。特に、原発事故の復旧においては、我々にあまり経験のない、放射線対応があり、復興のスピードを阻害している大きな要因となっています。すでに対応されている皆さんは悪条件の中、いろんな知恵を出し合って対処していることと思います。作業環境・資機材の手配に関連する課題等、既存のルールもなく非常に厳しい環境での作業となっているようです。

この様な状況の中、更に多くの英知を結集し、迅速に作業を進めるため、各社の意見要望の収集・国への上申ということが必要であり、その役割を担う立場として、機械化協会に対する期待も大きくなってきています。

この様な環境の中であり、たいへん重要な業種(職場)であるにもかかわらず、昨今就職の場として不人気になってきている現実があります。特に機電職員においては、入社希望者が少なく、人材確保に苦慮しているところです。

本来我々建設会社の仕事は「ものづくり」で社会に評価され貢献してきました。この機電技術者意見交換会も今回15回目を数えるわけですが、まさしく優秀な人材確保等をも鑑み「ものづくりの楽しさをどのように伝えるか」をテーマとしているところです。

この意見交換会の目的としては、

- ※ 情報活動の場としての活用
- ※ 建設業各社機電部門の活性化
- ※ 機電技術者の地位向上の一施策

があります。それぞれの所属する会社や従事している仕事・立場の違いはあるでしょうが、自社内での交流とは別の成果や刺激が期待できると思います。二日間という短い時間ではありますが、ものづくりの楽しさを伝えるにはどのようにしたらよいかという議論を通して機電技術者間のつながりを深めていただきたいと思います。また、二日目の講演会においては、今回の震災における「地震に伴う地殻変動」及び建設の機械化の歴史を知っていただきたく、「建設機械化の歩み」の二講演を予定しています。いろんな情報を吸収していただき、明日からの糧にいただければと思います。

◆ 第 15 回機電技術者意見交換会報告

2011年11月

(1) 背景

これまでに14回の機電技術者意見交換会が行われているが、参加者の感想として

「各社各人が機電職として同じ問題を抱えている

「同業他社との交流が有意義だった」

「継続的開催を希望する」

等々の意見が多く、それを踏まえて今年度も第15回機電技術者意見交換会を開催した。

(2) 討議テーマ

「ものづくりの楽しさをどのように伝えるか？」を各班において検討

課題の抽出・絞込み、その背景整理を行い、討議を実施した。

(3) 講演

・職業訓練法人 全国建設産業教育訓練協会

富士職業訓練センター 教育訓練課

非常勤講師 川本 正之

テーマ：「建設機械の変遷」

・(株)ジェノバ

営業部課長 岩田 好正

テーマ：「東北地方太平洋沖地震に伴う地殻変動について」

の講演をいただいた。

(4) 部会発表

各班の討議結果を2日目(10月7日)の午後、建設業部会委員参加のもと発表を行った。

(5) まとめ

この意見交換会を、機電技術者の意見交換の場作りとするとともに、本活動を、

①情報交換の場として機能させる。

②建設業各社機電部門の活惟化の一助とする。

③機電技術者の地位向上の一施策として役立てる。

と位置づけ、(社)日本建設機械化協会、建設業部会、各社がそれを支援するという
考えで進めて行きます。

以上、まとめを添えて報告いたします。

〒105-0011東京都港区芝公園3-5-8
(仕)日本建設機械化協会 建設業部会長
TEL 03-3433-1501 FAX 03-3432-0289

◆ グループ討議成果
(第1班)

第15回 機電技術者意見交換会 2011年10月7日

テーマ
「ものづくりの楽しさを どのように伝えるのか」

メンバー 第1班

・京免 健彦	佐藤工業㈱
・大角 嘉之	大豊建設㈱ (リーダー)
・杉田 崇	鉄建建設㈱
・豊田 敏之	鹿島建設㈱
・稲見 悠太	㈱フジタ
・青木 祐太	前田建設工業㈱ (発表者)

JCOMA 建設業部会

機電職を取り巻く現状

- ・人材不足→日々の業務が忙しすぎる
- ・土木屋のセンスが?
- ・機電職の魅力の低下
- ・転勤が多い
- ・中間層の年代の空洞化
相談できる人が少なくなっている

JCOMA 建設業部会

人材の確保

機電職が存続するためには

↓

機電職の継続雇用

- ・新規人材の雇用
- ・現職員がやめない環境づくり

JCOMA 建設業部会

人材確保を継続するために

どのように人材の確保するか

↓

ものづくりの楽しさを伝える

JCOMA 建設業部会

ものづくりの楽しさ

建設業(機電職)のものづくりの魅力

- ・若いうちから活躍できる場が与えられる
- ・他の誰かの役に立っている実感がある
- ・自分の創意で施工を進める事ができる
- ・工事の大小関係なく達成感がある
- ・人が集まる場所、文化をつくり、
歴史をつくっている

JCOMA 建設業部会

ものづくりの楽しさの伝え方

- ・業界の実情を具体的に見せる
見学会(機電職)実施(日本建設機械化協会主催)
インターシップの積極的な実施
- ・機電職間の交流
機電技術者意見交換会の継続
各地での分会の実施

JCOMA 建設業部会

今後の展開

- ・機電職の地位、発言力向上
技能のスキルアップ
機電職の有用性のアピール
- ・新しい形の表現
ファンタジー営業部(前田建設工業)
- ・雇用の間口を広く開ける
高校生の雇用促進
- ・悪いイメージの改善
建設機械関連事故の防止

最後に

ものづくりの魅力を伝えながら、
次世代へ技術を継承する

来年の意見交換会のテーマ
『次世代への技術の伝承』

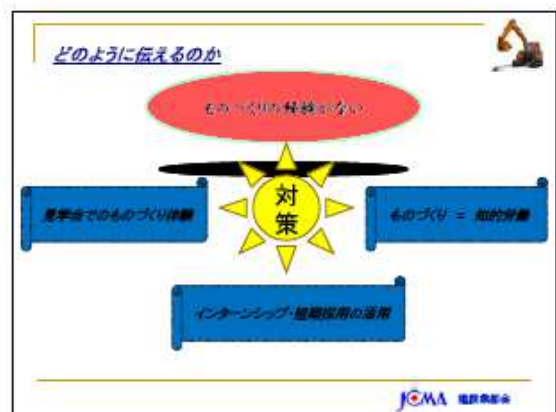
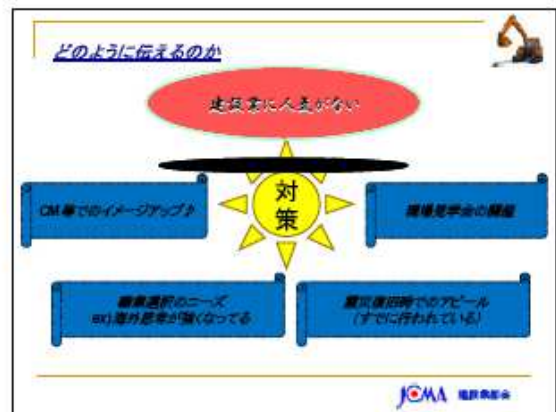
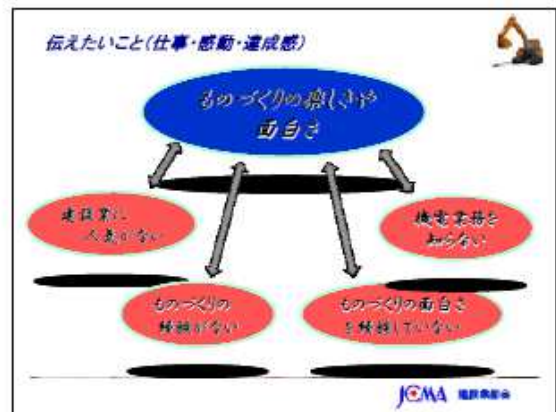
(第2班)

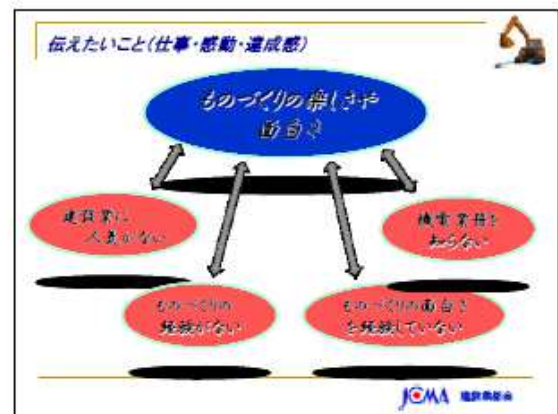
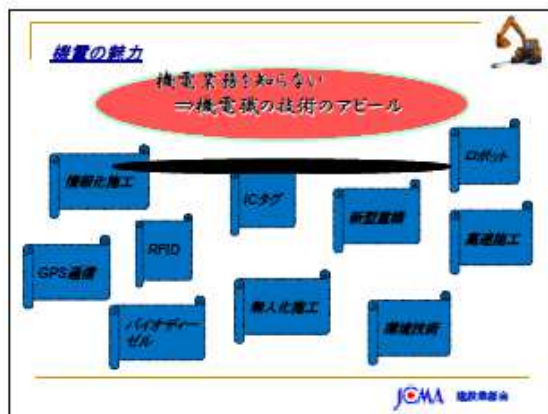
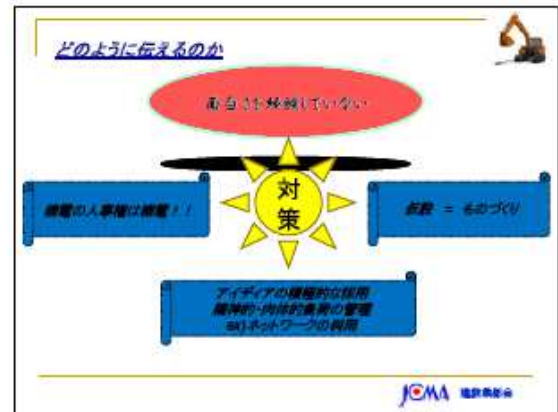
第15回 機電技術者意見交換会 2011年10月7日

テーマ
「ものづくりの楽しさを どのように伝えるのか」

メンバー	第2班
・横田 栄治	誠竹中工務店 西日本機材センター
・平間 貴史	三井住友建設㈱ 東北支店 梁子トンネル作業所
・水川 達也	東亜建設工業㈱ 土木事業本部 機電部
・副島 幸也	機間組 土木事業本部 機電部
・吉澤 尚志	清水建設㈱ 土木事業本部 機械技術部
・新見 幸之	大成建設㈱ 土木本部 機械部

JCMA 機電部会





(第3班)

第15回 機電技術者意見交換会

2011年10月7日

テーマ

「ものづくりの楽しさを どのように伝えるのか」

メンバー 第3班

・三輪敏明 株式会社大林組
・北本正弘 西松建設㈱
・平田健 株式会社薄池組
・中村聡 東急建設㈱
・園部隆一 五洋建設㈱
・松井悠起夫 株式会社奥村組

JCMA 機電部会

★ものづくりの楽しさってなんだろう？

- ・ 大きなプロジェクトに、携わることができる。
- ・ 達成感、充実感がある。
- ・ アイデアや、考えが直結する。
- ・ 社会貢献している。

JCMA 機電部会

★伝える相手である若者のイメージ

- ・ 建設業に良いイメージを持っていない。
- ・ 覇気がない。やらされている感があるようだ。
- ・ 忍耐強くない。LED的。
- ・ 飲み会に参加しない。個人主義。

本当に、そうだろうか？

JCMA 機電部会

★伝えること、技術伝承への弊害

- ・ 日常業務が多く、余裕がない。書類が多い。
- ・ コミュニケーションが少ない。
- ・ コンピュータに向き合っている時間が長い。
- ・ 現場に出ない。
- ・ つらさが先に伝わる。離職率が高い。
- ・ 現場の数が少ない。

JCMA 機電部会

★「以前とは、何か違う、、」問題点は、

先輩、上司、職人の仕事を見て、知って、
実践して、育ってきた。

- ・ 伝えるべき相手が、周りにいない。もしくは、かなり少ない。
- ・ 教える側にも、魅力のある人間が少なくなっている。
- ・ 喜びや達成感を感じる機会が、減ってきている。

自然に伝わっていかないような危機感がある。

JCMA 機電部会

★伝える相手が、いないと錯覚してるだけではないか？

- ・ 形態が変わってきているだけで、伝えるべき相手はいる。
- ・ 誰かが我々の仕事を見ている。
- ・ 土木職員や協力業者に、生産実務を通じて、伝えている。
誰かには、伝承されているのではないか。見ているのではないか。
- ・ 自分が、意識して輝き続ける。継続して楽しむ。
それが、近道ではないか？

JCMA 機電部会

★これからやってみよう！！

- ・『忘れてないか？』まず自分が楽しむ。
- ・以前と比較して伝えにくくなっているので、普段から伝えることを意識する。
- ・その手段は、多種多様で、今風にも対応可。
(飲み会 → ○○○)
- ・個人で出来なくとも、伝わりやすい環境にしていくには、
どうすべきか、考えながら行動する。

(第4班)

第15回 機電技術者意見交換会 2011年10月7日

テーマ
「ものづくりの楽しさを どのように伝えるのか」

メンバー 第4班

・西村 健治	前田道路㈱
・村上 優	日本道路㈱
・大谷 健二	大林道路㈱
・岩田 智	鹿島道路㈱
・大石 将典	㈱NIPPO
・毛塚 崇文	大成ロテック㈱

JCMA 機電部会

どんな人達に楽しさを伝えるか

就職を控えている高校生・大学生

 なぜか？

より多くの人に機電社員になってもらう

JCMA 機電部会

伝えたいこと(仕事・感動・達成感)

つくるもののスケールが大きい

- ・だれもが使うであろう高速道路
- ・空港の滑走路
- ・一般道全般、駐車場

道路以外にも色々なものが作れる

- ・レースコースやテストコース
- ・競馬・競輪場
- ・スタジアム・テニスコート

JCMA 機電部会

伝えたいこと(仕事・感動・達成感)

達成したものがわかる、目に見える

- ・実際に作った道路を走れる
- ・作ったものが長く残る

最新の技術を扱える

- ・大型の施工機械・特殊施工機械
- ・世界にも数台しかない機械
- ・新しい技術を提案できる

JCMA 機電部会

伝えたいこと(仕事・感動・達成感)

震災の影響で現在必要とされている

- ・多くの人々の為に働くことができる
- ・活躍できるチャンス

全国・全世界で活躍できる

- ・日本では北海道から沖縄まで
- ・世界ではアジア、ヨーロッパ各国

JCMA 機電部会

どのように伝えるのか・興味をもってもらうには

施工現場では見学会を開催、地元の学生を招待する

- ・新しい施工の方法の実演
- ・特殊施工機械の使用

テレビ・インターネット等の利用

- ・各社ホームページの充実化(動画の利用)
- ・テレビCMを具体的にわかり易いものにする
- ・リアルスコープ等の番組に取り上げてもらう(広く一般に見てもらうため)

JCMA 機電部会

最終に...

我々の仕事は
基盤を支える必要不可欠なものである



身近な場所でものづくりをしている



いい所も悪いところも見られる

JCMA 建設委員会

最終に...

故に
いいイメージを印象付けれるよう努力が必要



我々が、ものづくりを楽しむ
そして、より良いものを作る



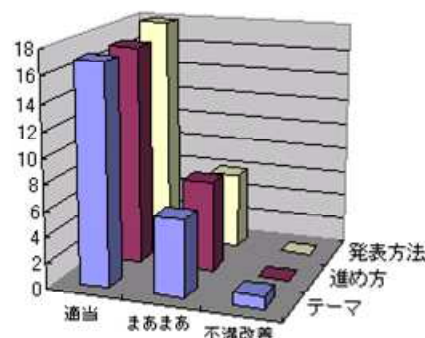
そのすべてを見てもらい、
ものづくりの楽しさを伝える

JCMA 建設委員会

◆ アンケート集計結果

1. テーマ、進め方、発表方法について

アンケート 結果		適当	まあまあ	不満改善
1	テーマ	17	6	1
2	進め方	17	7	0
3	発表方法	18	6	0



「ものづくりの楽しさ」という課題に対して、しままで議論したことはなく、具体的にどこが楽しくこの業界にいるのか再認識することができました。

大きなテーマだったので、いろんな考えや意見を聞き、とても参考になった。
最初は不況・不遇・不満・ネガティブな話題ばかりであったが、最終的にはとても前向きな意見(発表)になりとても良かった。
各班、もの作りの楽しさを知っている人ばかりでした。
グループ討議の時間もたっぷりありリラックスした中でも、活発な意見交換ができてとても充実していた。

テーマについては漠然としていて、討議の始めは何についての討議をするか戸惑いもあったが、解釈の仕方でも色々な意見があり、広く意見を出してどこに集約していくかと言うところに面白さがありました。また、各班毎にどこに視点を置かれて時間を掛けた議題が違っていたので発表を聞いて自分の班よりココが深く考えているな、違う方向で話があったんだろうと関心させられました。進行・発表方法は適当だったと思います。

今回のテーマはものすごく難しいテーマでしたが、色々な意見がたくさん出てものすごくいい討論ができたと思います。来年のテーマはぜひ若い世代への技術の継承をお願いします。

テーマを機電技術等の専門分野に絞り込み、発表・質疑に時間を割いた内容がよいと感じる。

よかったと思います。特に最初の自己紹介は行っている状況と行っていない状況でだいぶ、その後もミーティングに影響すると思います。今後も引き続き行っていただけたらと思います。

ちょっと、テーマ自体が抽象的だったこと、同じ議論を3年続けていることもあり、出尽くし感、新鮮さがなかったかとも少し思いました。

テーマが「ものづくりの楽しさをどのように伝えるか」という非常に重いテーマで、語られつくされた感じはあった。しかしながら、今自分が置かれている立場で正に問題として直面していたために、再考する良い機会であった。なかなか時間をかけてこまめに討議する機会を得ることはないため、食重な体験であると共に、結論という一つの方向性に気付くことができたことは、大変意義があったと感じております。多少方向性を持たせた方が議論はしやすい感じがします。

テーマが漠然としていたおかげで、自由に幅の広い討議が行えたのが良かったと思いました。

テーマ(楽しさをどのように伝えるか)に対して問題点は多く出されたが、社会、業界、個人ができる具体的な対策について全体討議を経て議論をもっと深めたかった。

今回の『ものづくりの楽しさ』をどのように伝えるかでしたが、一人で考えずグループで考えまとめることにより良い点、悪い点
がハッキリ見えてきました。今後の各社の機電帯の役割も見えてきたと思います。テーマは何でも良いと思います。

テーマがざっくりしすぎな気がした。

.....

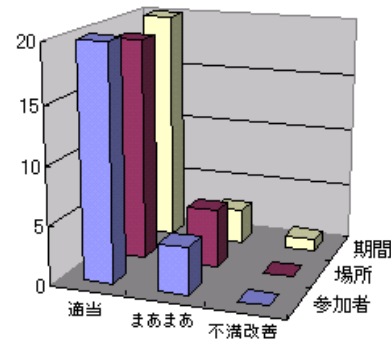
.....

今後のテーマについて

機電技術の伝承について
次世代への技術継承方法について
発表でも提案させていただいたが、今回は、テーマを変えたほうが、より充実したものになると思われる。
ずばり、『機電職の技術の伝承』です
『技術の継承について』
『次世代への技術の継承』
建設業界における機電職の地位向上
〈案1〉技術継承と機電技術者の育成について、〈案2〉建設業界のグローバル化について
機電技術者の役割〈今後の在り方〉
建設業の中の機電としての役割と今後の展望及び希望
建設業における機電技術者の役割とは？
『技術の伝承』、『世界中で仕事をするために我々が、取る姿勢』
“今後、建設業界が進むべき方向性について”
機電職員はどうあるべきか
機電技術者が輝き続けるために自分ができること
技術の継承方法について
「ものづくりの楽しさをどのように伝えるか？」
機電技術を伝承するとは？
未来・夢の建設機械の提案
機電技術者にとって必要なこと〈技能、考え方等〉 悩んでいる人にとっての道しるべになる可能性があり、また具体例を示さずご漠然と必要なことを考えるようにすると、個々のグループで単に技術のみまとめるグループがあったり、心構え的のことをまとめたり、その両方をまとめたりなどと、多種多様な発表の仕方があって面白いと思われる。
『人に喜ばれるものをつくるためには』

2. 参加者、場所、期間について

アンケート結果	適当	まあまあ	不満改善
1 参加者	20	4	0
2 場所	19	5	0
3 期間	20	3	1



各社、ほぼ同世代でかつ同業種の方々であったことは、素直な感情で意見を交わすことができました。 グループも適度な人数だったと思います。 討議場所についても何の不自由もなく問題ありませんでした。期間も2日で良いと思います。 とても有意義な会であり、もっとたくさんの機電社員が受講すべきと思いました。 開催回数を増やすことは難しいでしょうか？
参加者は年代としても広く、意見交換の場としては、経験や現状、今後の事についてそれぞれの立場で話を展開でき、機電職の実状が見えました。開催場所も非常にきれいで施設がコンパクトにまとまっていた印象で使い易かったと思います。期間としても2日間が現場の人間としても参加しやすいところでそれ以上だと参加の意思を出しにくくなると思います。
いい人達ばかりで、悩んでいたことはみんな越えてきた道なんだなと思いました。場所・期間もとてもよかったです。
会の趣旨に沿った人数・期間と考える。
・各社とも若手がアピールする少ない機会なので、なるべく発表者は若手に任せたいと思いました。 ・経験年数の原則(10年～20年)を若返らせることで、厳しい環境下にある若手のモラルアップとなるのでは？
確かに各会社として人を出す事になるので何日間もという話が難しいのはわかります。 ですが、社内にも数少ない同年代の機電職員との関わりがもてる少ない機会なのでもう1日でも長ければと思いました。 また、同一グループでの動きでしたので初日及び2日目にてグループ改編を行うのもありかと思います。
募集要項では対象年齢が30～40代になっていましたが、結果的に20代～40代までの広範囲にわたっての参加となりました。 私も20代での参加でしたが、先輩方とお話ができ、ネットワークも広げることができたことが今回の研修の最大の収穫だと思います。これからは、各グループに2人くらいの若手が入るような募集をかけると幅広い視点で議論ができると思うと同時に、仕事に対して壁に当たりやすい20代の機電社員の精神的なフォローにもなると思います。
年齢構成や参加人員は適当ではないかと感じました。場所は、都内で便もよく、施設に不満はありません。期間も2日間でしたが、ちょうど良かったと感じました。
若い人もおり、いろいろな年代の人の意見を聴けたのが良かったと思います。
意見交換会 夜の部の会場が若干少ないような気がしました。
今後も建設会社と道路会社の人員を呼んでいただき、建設グループと道路グループに分けて討議したい方が良いと思います。場所は良いのですが場所の詳細も付けていただく必要ありだと思います。

3. 参加して

アンケート結果		適当	まあまあ	不満改善
1	感想	22	2	0

同じ業務で悪戦苦闘するもの同士の共有感が「ストレスの発散」「問題意識の確認」「若干の希望」につながった。
各社、個々が抱える業種での問題点・課題は、社風や社の規模・方針はあれど非常に共通している点が多くありました。それらの課題に対して個々の改善点・向上すべき点を見出すいい機会であったと思いました。
同世代の機電職との交流は、非常に少なく、現場配置も少人数になっているため、今回の交換会では、普段の悩み等を相談したり、他の会社の現状を確認できたりし、大変に充実した時間でした。
同じような境遇であったり、同じような体験をしていたり、同じ悩みを抱えていたり、考え方が似ている人が多かった。機電職へのプライドが強く、好奇心・向上心があり、辛抱強くたくましい情熱的な人ばかりでとても刺激を受けました。
まず、非常に有意義でした。他企業・同業種(機電)の皆さんとの意見交換は普段では実現は難しく、『建設業の機電屋』と言う枠組みだけで意見を交わせた事が良かったと思います。皆さん現状は辛く苦勞しており、だからと言って腐らず意欲的で、どうにか良くして行けないかと言う思いがありました。私自身も普段感じていた事を言葉にして表現する良い機会となりました。
とても有意義で色々な人と出会い、考え方もいろいろ違って楽しかったです。
機電技術者の色々な意見が聞けてよかった。
他社の機電技術者の実情を実感し、共感を得ることができた。
特に、建設業界機電職員との情報交換ができ、有意義であった。
・今回は社内の都合によりピンチヒッター的であったこと、また意見交換会について予備知識を持った立場であったことから。 ・他社の若い世代と会話し、自社とのスタイル・考え方の差など、様々な面で参考にになった。
上記にも書いていますが、同年代の機電職員と関係を持てる数少ない機会になると思いますので本当に有意義であったと思います。また、考えている事は同じような事なのだという共感も持てたと思います。
自社でも自分よりも上の世代の機電社員と議論したり、飲みニケーションをはかることは稀なので、今回のような会を開いてもらえたことは非常に有意義でした。また、他社の機電社員とはJVを組んでもなかなか同じ現場で仕事することは非常にまれなので、このような機会に会社の枠を超えてコミュニケーションをはかれることは非常に重要だと思いました。
各社、上層部の方が来られていましたが、30分から1時間程度、グループ討議について、グループ内に入っていて、議論する場があっても良かったかと思いました。
普段は接する機会が無い、同業他社の人と意見交換が出来て、大変有意義だったと思います。
他社の機電技術者と知り合う事ができ、意見を交換できたのは非常に良い機会だったが、討議の中で自分の現状を悲観する意見も多く、前向きな意見が出にくいテーマだったのが少し残念だと感じた。
他の会社との意見交換ができたことが良かったです。
建設業に従事して10年以上の経験者が多かったので、所属会社の枠を考えず素直に同じ業種の先輩として意見交換が行えた。 先輩方の新入社員時代従事していた業務と現在、私が行っている施工管理業務と比較を行い、業務内容の変化をグループ内で討議して「メリット」「デメリット」を洗い出し、問題点などを話し合えたことは有意義であった。
自己アピール兼グループ討議のパワーポイントですが、使用したことのない人もいましたので自己アピールシート作成時に簡単な説明が必要だと思いました。私どもでも分からない人が多く、私も何度も間違いながら作成しました。ですが、今回出席したことにより他の会社の人と会話することができ自分にとってもプラスが多かったと思います。
他社の機電技術者と意見を交わす機会として非常に貴重な時間を過ごせた。
多少だが人脈が広がったし、色々な話が聞けてよかった。
普段話をする機会の無い同業社や建築業社の人と話をして、根本の悩みや考えていることが同じようなことであったことが親近感を覚えられた。ただ、道路会社と他の建設業者において、機電屋の立場が違っているように感じられたため、グループ内でのみの共感というのもあった。
なかなか他社の機械社員と接する事がなかったので、色々な話が出来、とても刺激を受けた。今後もこのような意見交換会が必要だと思う。
他社の技術者に接する機会としてとても有意義な研修でありました。同じ業界で活躍し、様々な考え方や抱えている悩み等々の意見交換は、私自身の今後活かせるものも多くありました。これからもこのような会を積極的に開催して行くことが建設業界の活性化に繋がると感じます。

4. 講演会について

アンケート 結果	適当	まあまあ	不満改善
1 感想希望等	7	16	1

新技術等の講演会の開催もお願いしたいと思います。
何か唐突な感じを受けました。 講演ではなく、新技術の紹介(各ゼネコンや協会や団体が公表しているもの)画像・動画などを流せばどうでしょうか？ 例えば 各社のHP公開新技術・SP-TOM工法・SENS工法・DoJet工法紹介ビデオなどなど。
海を渡って、海外のインフラを整備して、地元の人々に今も尚、感謝されている日本人がいると言う事に尊敬を感じたと共に、インフラの進んだ現代の日本ではインフラ整備自体が一般的には邪魔物扱いをされる現状もあり寂しく感じました。
もう少し、現場の話など聞けると良かった
今回の講演は、趣旨が曖昧であり必要性を感じない 施工例などの実例紹介が有意義と思う(電力対策等
機電職がメインなので、有用ツールを得るために建機メカや情報化施工技術等に関する講演などが良いと思う。
ジェノバ岩田さんの講義については、以前に同様なお話を聞いていた(最近のトピックスなので色々と発表されているのでは？)
ジェノバさんの話は、GPSや電子基準点に関する基礎となる知識がなかったためか、話が抽象的に感じ、理解しがたかったです。
二講演ともに、有意義な講演だったとは感じます。ただ、その講演から将来についての方策や方向性といった展望を感じる事ができなかったことが、少し残念な気がしました。内容が、過去や現状を伝えることに偏っているかなと、個人的に感じました。
講演に対して質問をさせていただきたかった(特に「東北地方太平洋沖地震に伴う地殻変動」について)。
講演会も良いですが、班のコミュニケーションも良くなる時間帯だったので班対抗でイベントを行えないかなと思いました。
建設業に従事する一人として講義「建設機械の歩み」は興味もありましたし内容もよかったです。 約60分の講義でしたが、個人的には90分は必要な講義だと思った。
今後も、姉ジェノバの地震に伴う地殻変動は必ず有ると良いです。
興味深い内容だったが、時間の関係で急ぎ足な感があったのが残念だった
岩田氏の講演は興味深く聞かせていただいたが、川本氏の講演はおっしゃりたいことがいまいちわからなかった。
地殻変動の話はとても興味深かった。

5. 今回の意見交換会から得たものを(複数回答可)

		人脈活用	情報交換	個々の レベルup
1	どのように活用できるか	20	21	11

業界、業種の抱える課題が共通しているということ、諸先輩方や次世代の後輩も同様に直面する課題であると考えます。明確な答え・解決策を見出すことは困難ではあるが、意見交換会を通じて現状を理解して改善し個々のレベルアップを図ることは可能と感じました。
今回参加したメンバーと連絡を取り合い、今後も様々な情報交換をしながらともに成長していきたいと思います。
友達(仲間でありライバル)が増えた感じです。 現状おまとんどが技術提案型の入札になっているため、各社保有の技術情報の交換とまでは難しい問題があります。
参加して多くの機電職の皆さんと知り合い、情報を共有出来た事が大きな収穫だと思っています。今はそれを活用すると言うよりも、糧として自分のスキルアップへの活力にして行きたいと思っています。
色々な人と話せたのがとても勉強になり、仕事へのやる気に繋がりました。
建築工事が主体なので、土木関係の機電技術者と知り合いになったことは大変良かった。
他社取り組みの中で、自社のスタイルに合った取り組みがうまく適合させていきたい。
お互いが持っていないスキルや考え方、会社によって違うやり方等等など本当に有意義だったと思います。まだまだお互いに吸収出来る事があると思うので上にも書きましたが期間を一日でも長くして頂けるともっと効果が上がると思います。
【人脈活用】機電社員としての悩み相談 【情報交換】現場対応・技術に関する相談 【個々のレベルアップ】年長経験者とも議論できる力
建設業会の機電職ということで、なかなか横断的に多くの人、考えと接する機会がなかったので、有意義でした。
私個人では、皆さんが同じ閉塞感に苛まれていることや、同じ問題を抱えているということを強く感じました。しかしながら、自分にはない考えややり方を聞くことができ、非常に刺激を受けました。また、私自身が今後もっと仕事を楽しもうというモチベーションを戴き、今後の自身の会社人生にとって、ふり返ると重要な岐路である気がしました。
同業他社の人の現場での経験や、会社の処遇が聞けて、勉強になりました。
改めて自分の考えを見直すことができました。
各会社の組織や福利厚生など情報共有できた。 先輩方の話を聞き、また意見交換する中で先輩方がわれわれ若手に求めている事も理解できた。 それを達成する為には、目標をもち計画を立てて主体的に行動していく事だと思う。
【人脈活用】今後の仕事で力を発揮する 【情報交換】お互いの会社での意見を元に良いアイデアを出し合う 意見交換が出来たことは、私にとって有意義なものです。お互いに協力出来る仲間が近くにいることを感じ今後の仕事に精進していきたいです。

6. その他の意見

若年機電職員同士の交流の場を積極的に作ることで、機電職員の意識向上につながると思います。地方分会の開催を提案します。
この意見交換会は、わたくし個人にとって大変有意義なものであったと感じております。社内に持ち帰り、意見交換の場を積極的に展開したいと思います。まずは、自分の業種を今以上に理解し、そして向上させ誇りと自信を持てるよう努力したいと思います。この気持ちを継続した結果が次世代につながると確信しています。このたび、参加させていただき誠に有難うございました。
今回は、非常に有意義な時間を過ごすことが出来ました。機電職は、ある意味孤独なところがあり、相談できる相手が少ないのが現状ですが、今回の交換会では、同世代の皆さんと愚痴などを交えながら討議し、最終的には前向きな話し合いになったことで、非常に元気をもらいました。チャンスがあればまた、参加したいと思います。 ひとつ提案として、自己アピールシートに各現場の紹介等の項目を取り入れ、新工法などの紹介も行えたら、さらに充実するのかなと思います。今回は、非常に貴重な時間を用意いただき、ありがとうございました。
参加できたことに感謝しています。是非、継続をお願いしたいと思います。 同じ機電職ということで、かなり似通った”愚痴や笑い話”があり、それを着にまた何処かで呑み会えたら最高です。建設業における少数精鋭の機電屋が途絶えることの無い様に雇用継続を願うばかりです。
今回の討議テーマについて、『ものづくりの楽しさをどのように伝えるか』→『ものづくりの楽しさは自分で経験しないと分からない』→『ものづくりに接する機会を増やす』という流れが一つありました。建設業で実際に働こうとする者に対してはまず『辛さ』を知った上で『楽しさ＝達成感』が得られると言う事を一通り経験する事が大事だと感じました。企業としては人を廻してやりくりしているところも多いと思われ、達成感を得られる機会(竣工など)が減少していると言う側面も見えた気がします。主観を交わす事で客観的な見方が見えてきて面白く有意義な時間となりました。また、『機電屋は一匹狼』と表現された方がいましたが、同じ一匹狼が日本中や世界に出て同じように頑張っていると実感して安心した部分があります。皆さんと話しても同じように思われた方もいて建設業の中で機電職は寂しさを感じていると思いました。次開催の際に人選されれば是非参加したいところですが、他の機電仲間にも参加して貰いたいと思います。
ほんとに有意義な時間となりました。是非、年1回だけでなく2回とやっていただけたらなと思います。
土木工事の機電技術者の方が多く、建築工事では考えられない悩み等が聞けたことは参考になった。
自社での機電分野の意見交換・発表等の場が少なくなっている現状であるため、各社の実情・情報交換ができ有意義であった。
本文交流会は非常に有意義であった。殆どの機電職の悩みは同じで、如何に会社や業界の中で自分たちの必要性や存在意義を内外にアピールできるかが昨今のテーマであったが、討議を重ねるなかでその考え方、発信手法、情報等を得ることができたので、今後の業務に役立てたい。また、本会を機に企業を超えた人のネットワークをさらに進めたいと思う。
いい機会に巡り合わせて頂いて感謝しております。 今後もこのような事がある場合は積極的に参加させて頂いて自らのスキルアップに繋げたいと思います。 本当に有難う御座いました。
ご担当および、準備された方々、ありがとうございました。
今後とも日本建設機械化協会の幅広い活動を期待しております。見学会や研修会があれば、どんどん参加したいと思っております。
他社の機電職員と話をする、非常にいい機会だと思いますので、年に2～3回開催して頂けたらいいと思いました。
「機電技術者意見交換会」という形だけでなく日本建設機械化協会主催でパーティー形式の交流会や賀詞交歓会など、年1回の頻度で自由に参加できる各社機電技術者の交流の場を企画していただきたい。
今回、はじめてこの意見交換会に参加させていただきました。会社は別ですが機電技術者の熱い思いを知り、刺激を受け感動しました。今後もできる限り継続していただきたいと思います。
今回、意見交換会に参加して日々の業務で忘れていたことを再認識出来て良かったと思います。 ものづくりの楽しさを伝える側として、一番大切なことが「自分が楽しむ」と言うこと。業務に関しても、ただ頑張るのではなく、意識して(主体的)頑張ると言うことを学んだ。
特にはありませんが、毎年のように意見交換会を開催していただき有難う御座います。
今回、意見交換会に参加して他社の機電職員も同じ様な考えや悩みを持っていると知る事ができたのは有意義だった。
ゼネコンと道路は別開催の方が良いのでは？
時間に細かい人間の意見であるが、自己紹介やグループ討議成果発表の場においては論文の発表時のように、ベルを鳴らして時間の経過を知らせるような方がよいのではないかと感じた。5分の自己紹介のときは3分経過で鳴らし、10分発表のときは5分と8分にそれぞれ鳴らすようにするなど。あらかじめゆ言いたいことをまとめておいて、必要なことを伝わりやすく時間内に簡潔に伝えることも必要と思うので。
これからこのような意見交換会を設けていただけるなら、是非参加したいと思います。

◆ 資料

(1) 意見交換会参加募集及びスケジュール

会場・会期は10ヶ月前に確定しており、参加者募集の事前予告としておおよそ2ヶ月前に建設業部会会員各社へ配信し、参加者の人選を要請している。その後、下記のような募集案内を会員各社へ配信し、参加者を募集した。

平成23年8月26日

各 位 様

(社) 日本建設機械化協会
建設業部会 部会長 川本伸司

第15回 機電技術者意見交換会および講演会のご案内

標記意見交換会および講演会を下記の要領により開催致します。

ご多忙の折、参加者を選出して頂きまして、ご連絡頂けますようお願い申し上げます。

記

1) 開催趣旨、実施要領（詳細は、参加申込者に別途送付します）

開催日 : 10月6日（木）～10月7日（金）

テーマ : ものづくりの楽しさをどのように伝えるか（3）

場 所 : 国立オリンピック記念青少年総合センター

参加費 : 17,000 円（宿泊・食事代含む）

※ 当日、協会発行領収書と引換に、徴収させて頂きます。

2) 講演会

講演会① 講師：川本正之

演題：「建設機械の変遷」

講演会② 講師：(株) ジェノバ 営業部課長 岩田好正（暫定）

演題：東北地方太平洋沖地震に伴う地殻変動について

3) 意見交換会参加者の選出基準（原則）

機電技術者（経験年数10～20年前後）

職務経歴問わず

4) 参加者の自己アピールシート

参加者には、自己アピールシートを作成して、当日発表して頂きます。

自己アピールシートは、パワーポイントによる作成とします。

作成要領等は、後日（受付締切後に）事務局より参加者宛に配信します。

概略は以下のような内容（構成）での作成となります。

① 氏名、所属会社、略歴等

② 今までに最も楽しかった仕事

- ③ 現在の仕事
- ④ 自己アピール（仕事以外で）
- ⑤ テーマに関連した事項で話したいこと

5) 過去の開催実績等

昨年度までの「機電技術者意見交換会」開催実績は、(社)日本建設機械化協会のホームページ (<http://www.jcmanet.or.jp/>) で閲覧できます。

検索は以下の手順で行って下さい。

6) 概略スケジュール（案）

【1日目】

- 08:30 参加者受付開始
- 09:00 会場集合
建設業部会長挨拶、意見交換会オリエンテーション
- 09:30 参加者の自己アピール発表（5分／人）
- 11:45 昼食
- 12:30 参加者の自己アピール（午前中に終了しなかった場合の予備時間）
- 13:15 グループに分かれて、グループ別討議
- 17:30 宿泊手続き等
- 18:00 懇親会（立食パーティ）

【2日目】

- 08:30 グループ討議（続き）
- 10:30 グループ討議の成果の取りまとめ（発表資料作成）
- 12:00 昼食
- 12:45 講演会
- 14:30 グループ討議成果の発表（15分発表・5分質疑／チーム）
発表資料はパワーポイントによる作成とし、後日、建設業部会・機電技術者意見交換会に掲載される報告書の一部となります。また、意見交換会報告書（CD版で、参加者配付予定）にも掲載されます。
- 16:20 全体討議、講評
意見交換会アンケート
- 17:00 閉会

7) 参加の申込

参加希望者は、次ページの申込書に所定事項を記入（必須事項は必ず記入）の上、**9月15日（木）**までに、機械化協会事務局あてに**メール**もしくは**FAX**にてご返信下さい。

機電技術者意見交換会のスケジュールは以下とおりである。

機電技術者意見交換会スケジュール

第一日(10月6日 木曜日)		時刻	第二日(10月7日 金曜日)	
		8:00		
8:30~9:00 参加者受付(受付、参加費集金)	センター棟 402号室	9:00	8:30~10:30 グループ討議	センター棟 4A号室 305号室 308号室 412号室
9:00~9:30 開会(進行:幹事長) 部長挨拶 オリエンテーション(趣旨説明、班編成等)		10:00		
9:30~11:45 参加者自己紹介 5分/人×24名=120分		11:00	10:30~12:00 成果まとめ、発表準備	
		12:00		
13:00~17:00 グループ討議 グループ内コミュニケーション グループ間コミュニケーション	センター棟 3A号室 4A号室 305号室 308号室	13:00	12:45~13:45 講演① 川本正之氏(富士職業訓練センター):「建設機械の歩み」	センター棟 402号室
		14:00	13:50~14:20 講演② 岩田好正氏(韓ジェノバ):「東北地方太平洋沖地震に伴う地殻変動について」	
		15:00	14:30~16:10 グループ討議成果発表会 グループ発表・質疑応答 (発表15分+質疑5分)/班	
17:00~17:55 各自、宿泊施設に移動し、宿泊の準備	宿泊棟	16:00		
18:00~ < 懇親会 > カルチャー棟 レストラン「とき」		17:00	16:20~17:00 全体討議、講評 事務連絡(アンケート、成果の配布等) 閉会の挨拶 (解散)	
	カルチャー棟 レストラン 「とき」	18:00		
		19:00		
		20:00		

(2) 参加者名簿

No	班	氏 名	所 属	経験年数
1	1	京免継彦	佐藤工業(株) 土木事業本部 技術部 機電課	25 年
2		大角嘉之	大豊建設(株) 大阪支店 津川ケーソン作業所	16 年
3		杉田 崇	鉄建建設(株) J V リニア御坂中作業所	15 年
4		豊田敏之	鹿島建設(株) 東京土木支店 第三土木統括事務所 中央環状品川線統合事務所本線シールド工事事務所	16 年
5		稲見悠太	(株)フジタ 首都圏支社東京支店 土木部 王子幹線 作業所	6 年
6		青木祐太	前田建設工業(株) 小坂・久々野トンネル作業所	2 年
7	2	横田栄治	(株)竹中工務店 西日本機材センター 電気グループ	25 年
8		平間貴史	三井住友建設(株) 東北支店 栗子トンネル作業所	17 年
9		水川達也	東亜建設工業(株) 土木事業本部 機電部	15 年
10		副島幸也	(株)間組 土木事業本部 機電部	14 年
11		吉澤尚志	清水建設(株) 土木事業本部 土木技術本部 機械技 術部	11 年
12		新見孝之	大成建設(株) 土木本部 機械部 機械技術室	2 年
13	3	三輪敏明	(株)大林組 機械部 企画課	18 年
14		北本正弘	西松建設(株) 関東土木支社 営業部営業 2 課	16 年
15		平田 健	(株)鴻池組 大阪本店 機材センター 機電課	16 年
16		中村 聡	東急建設(株) 技術研究所メカトログループ	13 年
17		園部陽一	五洋建設(株) 船舶機械部	11 年
18		松井悠紀夫	(株)奥村組 東日本支社 土木第二部 機械部	5 年
19	4	西村健治	前田道路(株) 工事業本部 工務部 機械センター	22 年
20		村上 優	日本道路(株) 機械部 機械グループ	1 年
21		大谷健二	大林道路(株) 本店 機械センター 施工技術課	13 年
22		岩田 智	鹿島道路(株) 生産技術本部 機械部 機械センター	3 年
23		大石将義	(株)N I P P O 生産技術機械部 生産機械グループ	7 年
24		毛塚崇文	大成ロテック(株) 東北支店 宮城営業所 仙台合材 工場	1 年

(3) 実施状況

①開会、オリエンテーション



②自己紹介



③グループ討議



④講演



⑤成果発表、討議

第1班



第2班



第3班



第4班



質疑



⑥ 講評



⑦ 懇親会



◆ 機電技術者意見交換会を振り返って

(社) 日本建設機械化協会
建設業部会 幹事長 山崎 忍

第15回を迎えた機電技術者意見交換会は、震災、原発事故、台風被害などへの対応で忙殺される状況下での開催となり、参加人員の減少を懸念しておりましたが、土木、建築、海洋、港湾、道路にわたる広い領域から機電技術者総勢24名の方々にご参加をいただきました。まずは参加者の皆様と会の趣旨にご賛同いただきました所属会社のご上司の方々に御礼申し上げます。また、貴重なお話を頂戴しました富士職業訓練センターの川本正之様、(株)ジェノバの岩田好正様にも御礼申し上げます。

2日間の短い時間ではありましたが課題テーマ“ものづくりの楽しさをどう伝えるか？”の討議を通じて非常に活発な意見交換がくりひろげられました。答えのない課題に対して機電技術者個々が置かれている状況、孤立感、伝承すべき後輩の不足、評価の在り方などの問題点の共有からはじまり、やがては機電技術者ならではの価値観や達成感などへと話が移行し、4つのグループそれぞれから個性豊かな発表がなされました。

今年4月幹事長に就任し、小職にとっても初めての本会参加になりましたが、小粒でも光り輝く機電技術者の方々にお会いできたこと、また、本会にご参加いただいた何人もの方々から“参加してよかった”とのお言葉を頂戴し、本当にうれしく思った次第です。

一方で本会の持ち方について建設的なご意見も多数頂戴しました。討議の課題テーマについては“技術の伝承”上げられた方が多く、人数的にも少ない機電技術者の切実かつ悩み多き課題であるようです。また“最新の機電技術”、“問題解決事例”、“具体的に抱えている現場での問題点”の紹介など、役立つ最新情報や知見を増やす場としても皆様から期待の声をいただきました。

閉会に際し、次年度の開催をお約束しました。今後機電技術者はより高度な専門性と広角的なバランス力が求められ、期待度も高まるばかりです。次回開催に際しては、変化する建設業界の状況と皆様から頂戴したご意見を踏まえ、本会が機電技術者の方々の交流や育成の一助となるよう検討を加えていきたいと考えております。

最後になりますが本会を支えていただいている建設業部会員の方々、また今回ご聴講いただきましたレンタル業部会幹部の方々にこの場をお借りして謝意を表させていただきます。